



経政会NEWS 10月号

企業の繁栄と経営者の成長を目指す

ニュースレター
2010年

特集 9月例会「社長が、社員が認知症!?!」

～プラス思考へ転換する認知症への理解～

講師/長谷川 嘉哉氏 医療法人ブレイングループ理事長

- ◇例会報告 ◇次回例会案内 ◇新入会員紹介
- ◇同好会だより (伴フィッシングクラブ・チームおいかぜ・遊楽園)
- ◇絆バトン ◇9月例会準備会 ◇編集後記



9月例会は、医療法人ブレイングループの代表 長谷川嘉哉氏 に講演をして頂いた。

今回は、神経内科医の「先生」に来ていただき認知症について詳しく学ぼう！という勉強会だろうと高を括って参加した人は、かなり戸惑ったのではないだろうか。

それは長谷川氏が、「医師」であることには間違いないが、それと同時に「すごい経営者」だったからだ。

経営者向けの講演だから、敢えてビジネス的な内容を話されたのかも知れないが、医療法人土岐内科クリニック、株式会社ザイタック、NPO法人グットシニアライフという

3つの法人を立ち上げ、グループとして運営されており、またスピーチのレッスンを受けておられたり、パーソナルコーディネーターをつけるほど外見に気を使っていたり、マーケティングの一環として本を出版されるなど、「医師」というより「すごい経営者」である。(そう言った意味で「長谷川先生」よりも「長谷川氏」の方がしっくり来る)

長谷川氏は、11年前に当時は少なかった訪問診療を専門とした土岐内科クリニックを開業された。

また、訪問診療と同時に認知症の専門外来もスタート。

その後患者さんのニーズに合わせ、訪問看護ステーションを作り、さらにグループホームを作り、在宅介護においてトータル的な受け皿となる医療機関(ビジネスモデル?)を構築された。

また、認知症の専門外来も、外来者数が岐阜県でNo.1になるほど成功されている。



◆「昨日の夜ご飯何だった？」

この質問の答えが出てこなくても、心配しなくてもいいようだ。

しかし、昨夜にご飯を食べたかどうかがわからない、思い出せない人は、迷わずに土岐内科クリニックに行こう！

只の物忘れ(健忘)は、年齢と共に多くなる、言わば老化の範囲であって、認知症ではない。自分の行為等を忘れてたり、思い出せないのは、認知症の症状のようだ。

そう言えば、昨日言っていた事と、今日言っている事が違う人がたまにいるが、あれは認知症なのだろうか？なんて、疑問を抱いたのは僕だけ？

◆認知症の予防と対策

認知症は簡単に治る病気ではない。なってしまったら、いかに進行を抑えるかという世界だ。

そして何よりも周囲の人、家族に大変な苦勞を強いる事になってしまう。

認知症はいきなり発症するケースは少なく、多くの場合脳出血や脳梗塞の後遺症から認知症になる。

よって、認知症予防とは生活習慣病の予防そのものである。

- タバコ吸わない
 - 酒は程々
 - 運動習慣
 - ストレス溜めない
- (結局コレなんですね！)

また、認知症になってしまったら周りの人は大変苦勞する。

長谷川氏曰く、ケアする家族にとって重要なのは、病気を否定するのではなく、病気を認めて上手く付き合っていくスタンスを持つことだ。

認知症について無知な家族は、患者の予想だにしない行動や発言に振り回され、疲れ果ててノイローゼになってしまう。

ちゃんとした知識を持ち、長谷川氏のような専門医に相談しながら、ケアしていく事が重要だ。

日本の高齢化が今後ますます進むのは間違いない。

そして、それに伴い認知症の患者数も増え、その家族をはじめとし認知症に関わって生きる人の数も増えていく。

今回の講演で学んだのは、認知症とは、かかった本人だけの問題ではなく、家族を含めた規模で捉えなくてはならない病気であるということ。

認知症について、詳しく知りたい人は是非！長谷川先生の著書、

「患者と家族を支える認知症の本」(学研メディカル秀潤社¥1,890)"を一読ください。



僕も講演の後購入させて頂き読みましたが、知らない事だらけでした。知ってるのと知らないのでは大違い！

吉村グループ 高橋 康幸